

研究結果

研究テーマ：ベトナム進出日系企業における日本語使用人材ニーズおよび日本語教育事業への提言

本研究の結果、以下の点が明らかになった。

業種別にみると、最多は製造業、2番目がサービス業、3番目は貿易・商社と続く。

それぞれの企業が採用する日本語人材採用人数では、最も多いのが10人以下、二番目に多いのが10人～30人で、最も少なかったのが30人以上を採用する企業。

ベトナム人社員の担当業務については、回答率の高い順に並べると 通訳 事務職員/翻訳 マネージャー セールス 秘書 専門技術者の順となり、それ以外の業務は、比較的少ない。

ほとんどの日系企業では日本語能力試験の資格を要求し、その資格レベルは2級レベル以上である。

4技能のうち、「読む」「書く」よりも「聴く」「話す」の能力を養うことが重要とされる。

「聴く」「話す」に関しては、すべての担当業務において社内会話、社内会議、電話対応が必須能力として要求されている。更には、セールス担当やマネージャーといった業務においては、接客、商談、プレゼンのスキルも必要とされる。

「読む」「書く」に関しては、伝言・メモやメール・ファックスなど日常的なビジネス文書の読み書き能力が要求される。

ベトナム人社員の日本語能力の中で特に劣っていると思われる部分は、プレゼンや報告の仕方や敬語の使い方などを含めた発話力と聴解力並びに専門知識である。

ビジネスマナー、企業文化、日本的経営の知識などもしっかりと身につけるべきである。

こうした日系企業のニーズに応えるために、以下のことを提案する。

日本語学習者には、卒業時までには2級を取得できるようなカリキュラムを組む。

「聴く」力「話す」力を伸ばすためには、知識中心の授業よりもクラス活動やロールプレイ型 或いはスピーチ、グループディスカッション、生のテレビ番組を多く取り入れた授業を重点的に展開すること。

日系企業へのインターンシップを通じて学生の日本語応用能力を高めること。教育機関が企業の協力を得て、本格的なインターンシッププログラムを策定すること。

分野別の専門日本語を教えること。ちなみに本学(貿易大学)では金融/銀行、経営管理、国際経済、特に最近では日本の複式簿記の講義など本学独自の専門日本語教育に取り組んでいる。

また、専門用語の対照表、辞典などの整備も重要である。

ビジネスマナーの習得に関しては、ビジネスマナーだけに特化した授業、日本人企業家による特別講義を導入すること。その場合、ビデオやロールプレイ形式等によって学生達に具体的なビジネス場面を理解させることが有効となるであろう。

インターンシップやアルバイトを通して体験できる機会を大学側が極力提供すること。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

『ベトナム進出日系企業における日本語人材ニーズおよび日本語教育事業への提言』(中間報告)

Dr. TRAN THI THU THUY

貿易大学主催国際シンポジウム『ベトナムにおける日本語人材の実態および日本語教育促進』

2011年1月14日

貿易大学ハノイ本校, 91 CHUA LANG, HANOI

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1) 『ベトナム進出日系企業における日本語人材ニーズおよび日本語教育事業への提言』(中間報告)

Dr. TRAN THI THU THUY

貿易大学主催国際シンポジウム『ベトナムにおける日本語人材の実態および日本語教育促進』

紀要、2011年1月14日

2) 『ベトナム進出日系企業における日本語人材ニーズおよび日本語教育事業への提言』(最終報告)

Dr. TRAN THI THU THUY

貿易大学日本語学部主催学会『新段階における日本語教育 - 単位制を切り口に』紀要、2011年

12月23日

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)